

SDGs×北陵新時代

～輸入飼料に頼らない、足腰の強い畜産経営を目指して～

近年の社会情勢による牛の飼料価格の高騰を受け、飼料費を抑えることがきっかけとなり、飼料の見直しを行った。本校の和牛の肥育期間に給与する飼料の2/3は輸入飼料であり、今回はその約半分を国産飼料に代替えし、給与後の和牛の栄養状態や消化状況に変化はないか経過をみていった。代替えした飼料は本校で調整したオリジナルのTMR（クラフトパルプとソフトグレインサイレージの混合飼料）である。経過の評価方法として試験区、対照区のデータを定期的に比較した。内容は糞洗い採血、体重測定である。現在、給与を始めてから約6か月経過したが、糞洗い、採血、体重の推移ともに、試験区の経過は良好である。今後も継続的に経過をみたいと考えている。